

14-3 義歯の不適合（ぎしのふてきごう）

部分入れ歯の支えになっている歯が虫歯になったり、長期間外していたりしたために義歯が合わなくなることがある。

総入れ歯では顎堤[かてい]（歯がなくなって歯肉だけになった部分）が退縮し、顎堤粘膜も薄くなっているために、義歯の安定性や維持力の基盤が失われ、義歯による痛みを訴えがちになる。また、著しく体重が減少した場合などは、顎堤粘膜の形状変化により義歯不適合の原因となる。

主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 義歯ががたついたり、浮き上がったり、痛みを覚えたりする。 ● 義歯床内面に食物がたまる。 ● 口を開けると義歯が動いたり、落ちたりするため、会話もしにくくなる。 ● 義歯が歯茎や頬、舌の付け根に傷をつけ、粘膜がむけて潰瘍を作ったりする。 ● 噛み合わせが合っていないと舌や頬を噛みやすくなる。
------	--

生活上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 合わない義歯ではうまく噛めず食事の量が減ったり、内容が偏ったりしがち。 ● 義歯は食後に必ず外して清掃するようにする。 ● 義歯の機能を十分に活かすためにも、口腔内の清潔保持のためにも義歯を取り外した後の口腔ケアは重要。 ● 就寝時は原則として義歯を外し、よく洗浄して乾燥しないように義歯保存容器に水を入れて保管する。 ● 部分入れ歯の場合、クラスプと呼ばれるバネの部分にプラーク（歯垢）が貯まりやすくなるので、よりていねいなブラッシングをこころがける。
---------	---



ケアマネジメントのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 義歯を作る主な目的とは、 1. 噛めるようになる。 2. 発音を明瞭にする。 3. 顔貌を整える。 があげられるが、このうちどれかに役立つのであれば義歯を作った方が良いと考えられる。 ● 本人または介護者が何らかの事情で口腔や義歯の清掃が困難な場合や、義歯を作らずそのままにしておきたい場合等、歯科医師とよく相談して決める。 <p>※<u>歯科診療が必要なとき</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 義歯が歯肉にあたって傷ができています。 ※発見しにくいことがあるので注意する 2. 食事が摂り難い。 3. うまくしゃべれない。 4. 食事や会話中に義歯が外れる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 特に歯肉の痛みがあれば早期に受診することが必要だが、受診するまでは義歯の使用を控えて傷を大きくしないほうがよい。
---------------	---

総義歯の脱着方法

